

## 木工の心得

木工に限らず、多くの物事に共通する心得は、六割の忍耐と三割の工夫である。例えば、鋸で木を切る時、早く切りたい一心から、懸命に力を入れて鋸を往復させると、却って時間を費やしてしまう事が多い。鋸の一歯で切る量を増やすより、行程を長く取って当てる歯の数を増やす事を優先した方が、また、一回の行程で削る量を増やすより、行程数を増やして力まずに切るよう心掛けた方が良い。一行程での切削量は少なくとも、加工は着実に進んでいる。何時かは切り落とせる。但し、只管忍耐と考えたら行き過ぎである。工夫があってこそ忍耐が役立つ。例えば、「もっと小さな力で楽に加工するには、工具の当る角度を変えてみたら如何か？」などと、工夫を重ねると、より小さな力でより早く、より綺麗に仕上がる。苦痛が耐え易くなる。

残りの一割は知識である。知識があるからと言って、上手に加工が出来る訳ではないが、何も知らなければ始まらない。だから一割だと考える、

## 工夫の基本

工夫しろと言われても、いきなり一から考えるのは難しい。又、工夫の為所は数限りなくある。先ずは加工の基本動作に従う処から始めると良い。作業は加工物の固定、体勢の確保、視線の確保の順で進む。より良い固定、より良い体勢、より良い視点を求めて、工夫しながら作業すれば、綺麗に早く加工でき、忍耐の限界が来ない内に加工が終了すれば幸せである。

## 1. 加工物の固定:

工具を当てて力を入れると加工物が逃げる様では拙い。又、工具が暴走した時、抑えている手など、体を傷つけてはならない。作業台、万力、シャコ万、当て板、その他色々利用して加工物を固定する処から始まる。必要なら専用の治具を作るのが好い。

## 2. 体勢の確保:

加工線を体の軸、又は稍利き手寄りに向ける様、加工体勢を取る。その体勢が辛かったら、加工物の固定から遣り直す。鋸の切断線が曲がってしまうなど、期待通りの加工ができない原因は、加工線が体の軸から外れていることが多い。又、その姿勢が辛ければ、忍耐も長続きしない。

## 3. 眼の位置:

眼は加工線上に置く。大きな力を出そうとすると、瞬間目が外れる事は有るが、正当な位置に直ぐに戻すよう心掛ける。鋸加工では目の外れた方向に曲がり易い。

これに加えて手順も大切である。大きく切り取ることから始め、順次細かい作業に移ることは、誰もが当然のように考えられることではあるが、熟慮しないと加工不能になることもある。これは木工に限らず、あらゆる作業に置いて考えるべきことである。

## 木の特性

木は上に向かって伸びて行くので、その方向に繊維が並んでいる。又、樹皮の直ぐ内側に生長点があり、内側に木質を外側に樹皮を

作って太って行く。夏と冬で生長速度が異なるので、年輪が出来る。木材の強度は、繊維方向と、直角方向で異なるので、使う時にも、加工する時にも繊維方向を意識しなければならない。

## 工具の特性

木工工具は先人の努力によって改良が重ねられて来た。加工に適した工具を使い分けなければならない。<sup>のこぎり</sup> 鋸は加工物を直線的に切断する時に使う。<sup>ののみ</sup> 穴を空けるには<sup>のこぎり</sup> 鋸やドリルを使う。溝を掘るには<sup>ののみ</sup> 鑿や彫刻刀を使う。表面を滑らかにするには<sup>かん</sup> 鉋や<sup>やすり</sup> 鑿や<sup>かみやすり</sup> 紙鑿やワイヤーブラシを使う。部品を組立てるには<sup>くぎ</sup> 木組みや<sup>もくねじ</sup> 釘や木螺子を使い、それを打込むには<sup>きづち</sup> 木槌や<sup>かなづち</sup> 金槌や<sup>ドライバー</sup> 螺子回しを使う。釘を抜くには<sup>ドライバー</sup> 釘抜を使う。針金で結び付けるには<sup>ペンチ</sup> ペンチや<sup>プライヤー</sup> プライヤーを使う。針金を切るには<sup>ワーク</sup> ニッパーを使う。加工物を固定するには<sup>ワークベンチ</sup> 作業台や<sup>まんりき</sup> 万力を使う。加工に先立って目印の線を引くには、定規や直角定規やコンパスと共に、鉛筆などを使う。板の端面に平行な直線を描くための専用工具もある。穴開けに先立って<sup>ポンチ</sup> 打ち金を使うと、刃先が逃げない。また、面に垂直な穴を明けるためには、ボール盤が有効であるが、電動ドリルに取り付けて使う補助治具もある。適正な道具を選び、適正に使うのが<sup>かんよう</sup> 肝要である。

誤った工具の使い方をすると、怪我をすることもある。ドライバーの代わりに<sup>ののみ</sup> 鑿を使うと、刃先が欠け飛ぶこともある。目に飛び込めば失明しかねない。鉄製の工具は焼入れ・焼戻しによって、<sup>ふさわ</sup> 相応しい特性が備わっているので、正しい使い方をして欲しい。

しろウト

## 素人の木工

<sup>こころえ</sup>  
木工の心得

庭木の剪定で太い枝を切った時、折角生長した物を芥として捨てるのを忍びなく思い、木工を再開した。試行錯誤しながら様々作っていると、孫が興味を示してくれた。孫の為にと思い、教えたことを書き始めたところ、自分自身も基本に立ち返る事が出来、一段腕を上げる事が出来た。

木工の初心者への助けになれば幸いである。

石井未来館館長 石井峻

[http://:ishii-miraikan.com](http://ishii-miraikan.com)